

令和3年度第1回地域包括ケア事例研究会
～認知症地域支援推進員の活動のさらなる向上に向けて～
関東信越厚生局
2022年2月17日

認知症介護研究・研修東京センター
副センター長（兼）研究部長
永田久美子

資料 2

地域共生のまちづくりに向けた焦点と展開方策

～地域包括ケアシステムと認知症施策の一体的な推進～



今日、お伝えしたいこと・一緒に考えたいこと

1. これからの方向性と焦点の（再）確認

2. 地域共生のまちづくりのポイント

*多様な事業を活かしながら、地域共生を推進している
全国各地の活動事例を参考に

活動の焦点は
これだ。

日常業務を見直し
めざす方向に向けて
焦点に注力しよう！

うちのまちは
この方向を
めざして進もう！



立場や職種を超えて、力をあわせて

1. これからの方向性と焦点の（再）確認



これからの方向性

1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030 2040 2050 2060~

◆痴呆(認知症)が
社会問題化

◇認知症施策の
体系的整備が
スタート

認知症施策

認知症施策
推進大綱
(2019年6月)

希望をもって
ともに暮らし
続けられる
地域共生社会

高齢者施策

地域包括
ケアシステム

高齢者

全世代
多様な障害
多様な課題

全世代型
包括的
支援体制

全世代

大綱の目標年:2025年までが重要な変革期

あと、3年半・・・をいかに活かすか。

地域共生を目指して:すべての地域で、多世代・多分野とともに

★これからの方向性：大綱を道標として

認知症施策推進大綱

○発症や進行を遅らせる：「認知症にならない」という過剰期待を抱かずに備える

★認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指す。

共生

- ・認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる
- ・認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる

これまでの施策（新オレンジプラン）

*やさしい社会を目指す
支援者が主体

*医療・介護・福祉分野が主

大綱

➡ 希望をもって過ごせる社会を目指す
★本人が、すべての人（私たち）が主体

➡ 「社会全体としてより総合的に」目指す
★社会のあらゆる領域の人が参画・協働
ともに取組める人・領域の広がり

「施策の5つの柱」と視点

1. 普及啓発・本人発信支援
2. 予防
3. 医療・ケア・介護サービス・
介護者への支援
4. 認知症バリアフリーの推進、
若年性認知症の人への支援、社会参加支援
5. 研究開発・産業促進・国際展開

これらの施策は全て
認知症の人の視点に立って、
認知症の人やその家族の
意見を踏まえて推進する
ことを基本とする。

認知症施策推進大綱「基本的考え方」

★本人視点が重要な鍵

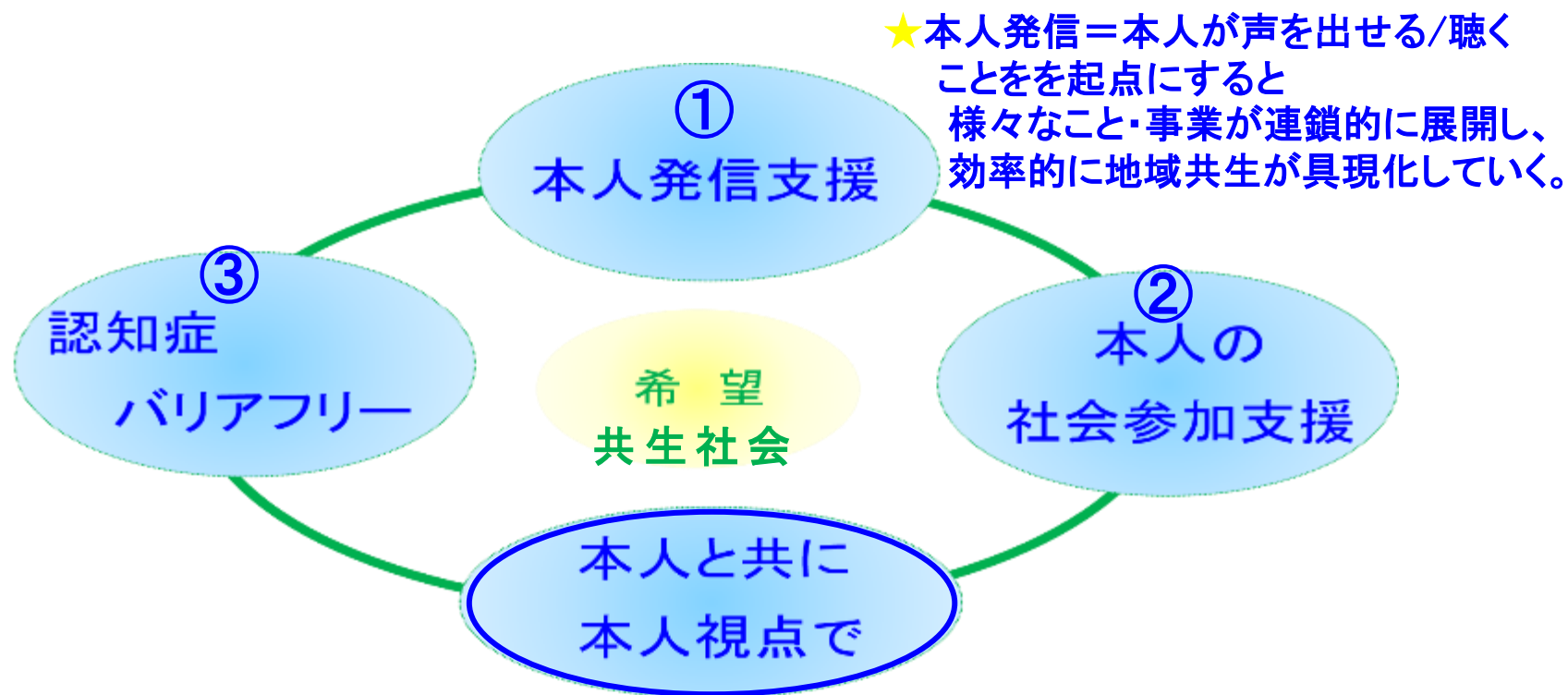
①本人視点にたって、本人の安心・安定、自立/自律に注力することが

本人はもとより、家族・専門職・社会の負荷の軽減、活力の向上の原点

②家族が不在の本人が増加：一人暮らし、老々世帯、家族がいても日常的関わり困難
→認知症があっても、本人が一人で暮らし続けられる地域社会をつくる

*このことが、家族がいる場合も、家族の生活とつながりを保ち、家族本来の力の発揮につながる

これからの焦点・注力すべきことは何か



大綱の柱をしっかりと活かそう

①～③は・・・

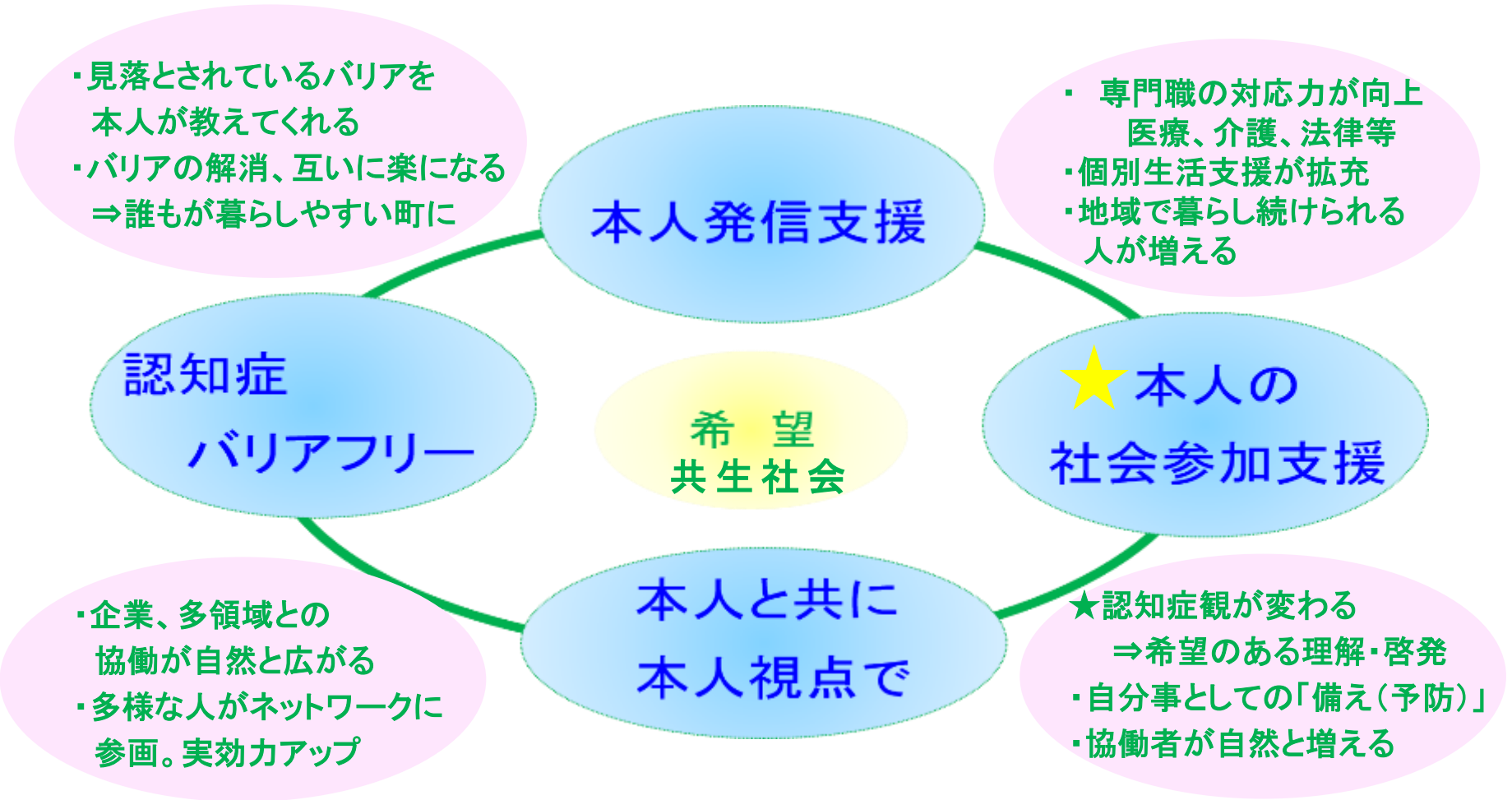
・あらたに特別なことをせずとも、ふだんの取組から展開できる。

★焦点化して取組むと、付加価値が高い。

★自分が本人だったら、あたりまえのこと(不可欠なこと)

自分ごととして、自然体で

焦点に注力していくことで、付加価値（波及効果）が生まれる



*焦点に注力: 本人の変化が見えやすい ⇒ 理解、協力の輪が広がる
*手ごたえ、やりがいを実感できる: とともに楽しく生き生き活動できる

本人が発している声を聴きながら、日々の中で本人が望む社会参加・バリアフリーを

本人が生き生き⇔家族も生き生き⇔地域も生き生き
目の当たりにした人たちの意識が変わる、希望の良循環が生まれる



縫物が大好き
⇒若者の服のつくろい役



掃き掃除はできるよ
⇒地域の日々の掃除役
自治会から表彰・家族も喜ぶ



体を動かしたい
⇒保育園で保育士さんの
助っ人に



働きたい、稼ぎたい
⇒洗車の仕事、
単純作業
の手伝い



謝
礼

真剣で丁寧な仕事ぶり
⇒店長や職員が刺激を受け奮起



子供たちを守りたい
⇒通学路のパトロール中
子育て世代、自治会から
感謝され、日々つながる

参考

「地域共生」は、「いつかそのうち」の遠いビジョンではなく、
現在進行形の「今」のテーマ

推進員活動を通じた市区町村の地域共生の進捗状況(人口規模別)

【市区町村調査結果】

N=1,161 %

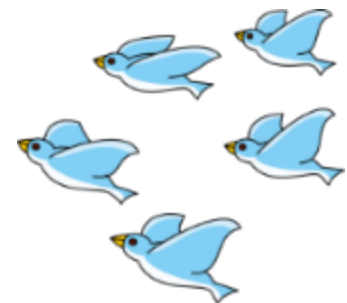
人口規模	地域共生の進捗状況：本人が希望を持って自分らしく暮らし続ける				
	まだ動きも 予定もない	今年度はまだ、 来年度から 動き出す (予定を含む)	今年度から動 きだしている	少しずつ 進みつつある	年々、 拡充している
計 (1,141) *不明除いた回答数	34.0	19.6	3.8	39.9	1.1
1万人未満 (280)	40.0	17.7	3.8	37.7	0.8
1万人以上3万人未満 (291)	41.2	16.2	2.4	38.5	1.7
3万人以上10万人未満 (356)	32.0	19.4	4.2	43.3	1.1
10万人以上20万人未満 (121)	25.6	29.8	6.6	38.0	0.0
20万人以上 (113)	21.2	26.5	3.5	46.9	1.8

2020年度老健事業 認知症介護研究・研修東京センター DCネットで公開

「認知症地域支援推進員の質の評価と向上のための方策及び認知症の人等の
社会参加活動の体制整備に関する調査研究事業」

2. 地域共生のまちづくりのポイント

* 多様な事業を活かしながら、
地域共生を推進している
全国各地の活動事例を参考に



地域共生のまちづくりのポイント

* 全国の自治体の好事例より

1) 推進員の位置づけと機能の(再)確認と共有、周知

2) わがまちの方向性・焦点をいつでもどこでも語りあい、日々の取組のあたりまえに

3) ふだんの業務を活かし、本人発信・社会参加に注力

* (小さな) 成功体験の蓄積

* コロナ禍の今こそ

4) 取組む際は、本人視点で、まちの多資源とひたすらつながる・つなげる

* 実は・・・基本的なことばかり。

◆ 日々の中でできる。

◆ 「動き出してみること」が重要。

◆ 続けることが重要

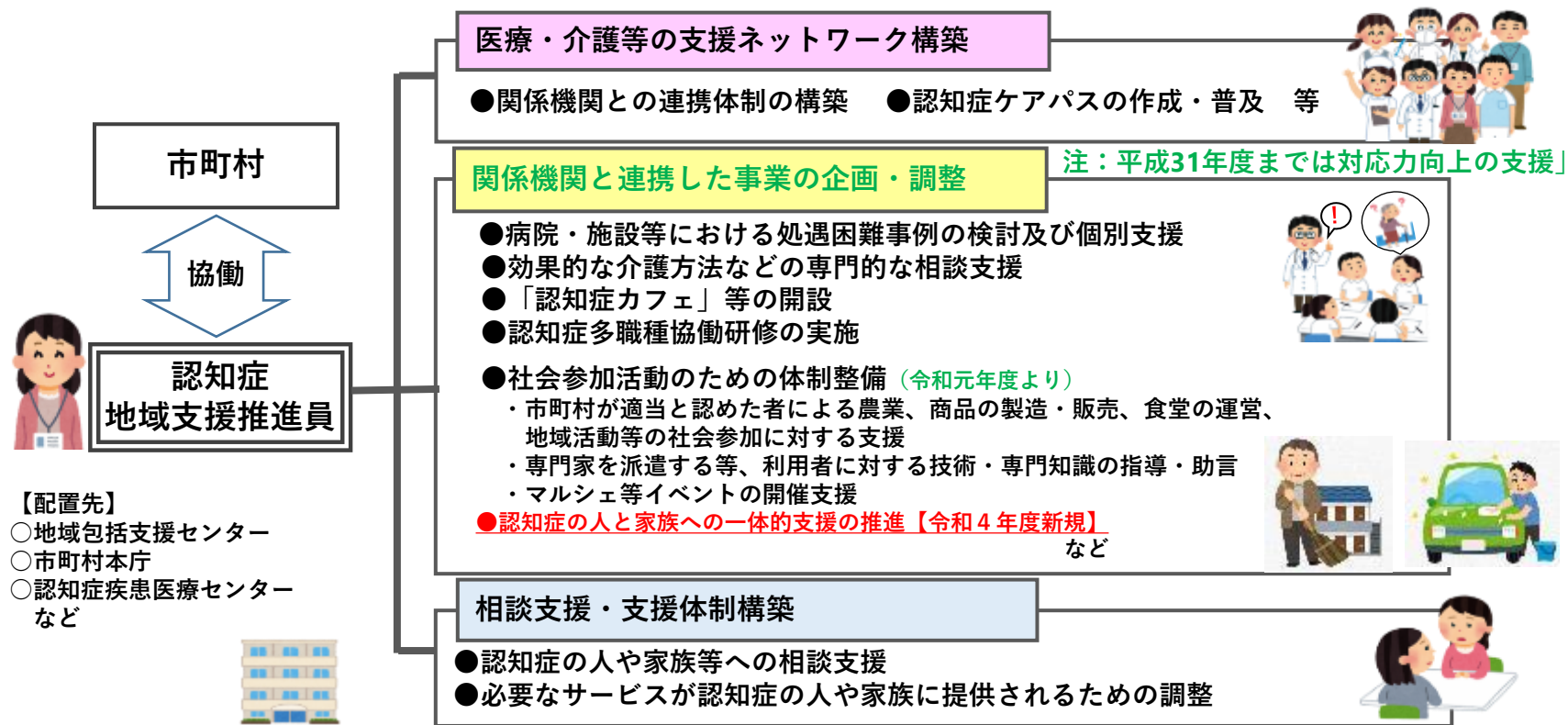
・ 日々の中で

・ 年度が替わっても(担当が交代しても)

ポイントをバトンタッチ

1)推進員の位置づけと機能の(再)確認と共有、周知

認知症地域支援推進員



厚生労働省資料をもとに緑字加筆

認知症推進員は、認知症施策の推進役、ネットワークの要役

* 市町村との協働があってこそ動ける・成果がでる

配置済み→市町村が配置した推進員と、

協働を強化し、施策を効率的に推進する段階へ

推進員に期待される機能と大綱との関係

★認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指す

地域共生

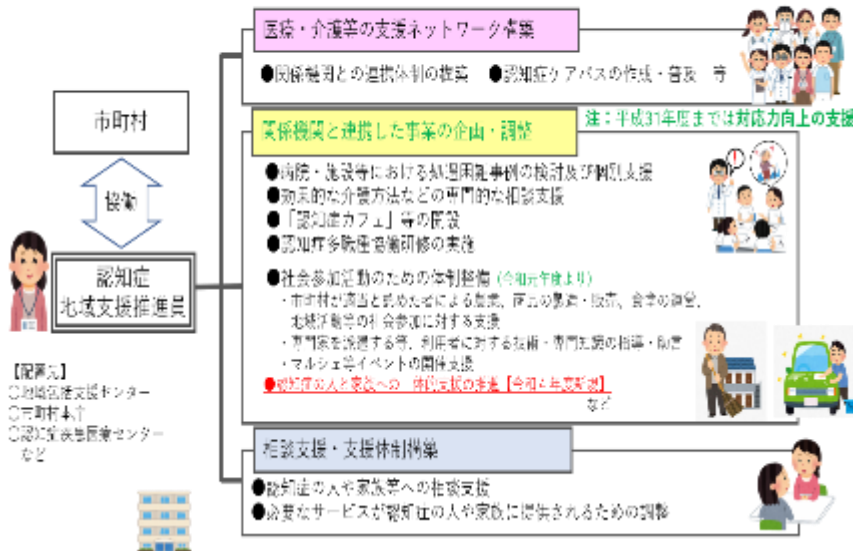
<推進員に期待される機能>

<大綱の柱>

認知症地域支援推進員

本人の視点、本人・家族の意向の重視

1. 普及啓発・本人発信支援
2. 予防
3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
5. 研究開発・産業促進・国際展開



*3つの機能はつながりあっている。

*推進員は、多様な事業を部分的にこなすために配置されたわけではない。

★めざす方向に向けて、本人視点にたって、地域の資源・つながりを育て、
 「地域共生」の実現を具体的に推進していく重要な存在

認知症地域支援推進員、市町村担当者、都道府県担当者が課題と考えていること

令和2年度 全国調査結果結果より（認知症介護研究・研修東京センター）

	推進員 N=3,402	市区町村 N=1,161	都道府県 N=47
方向性と焦点の明確化	97.7	96.7	89.3
事業を単発でなく包括的に	94.4	94.1	89.3
取組を持続発展させていくためのフォーメーションづくり	88.1	87.1	89.3
推進役の人たちの主体的活動の尊重・後押し	91.4	91.5	87.2
推進役の人たちが日常的に相談しあえるネットワーク	95.8	94.9	95.7


【目指す姿（ビジョン）】

★希望を持って日常生活を過ごせる社会に：発症（進行）を遅らせる
共生を基盤として



地方自治体：ビジョンに照準をあて、日常の中で実現を図っていく役割

施策（多種多数の事業）を単発的・単年度内でこなす発想・やり方からの脱皮が不可欠。

 本人視点で事業・人の連動を育てる企画をたて、経年的に持続発展させていくことが重要。

→ 行政担当者と地域（現場）をつなぎ、担当者とともに事業を推進する推進役が必要。



ここを目指そう！
全ての事業を
ここに向けて
つなげていこう

【施策の柱】

1. 普及啓発・本人発信支援
2. 予防
3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の
人への支援、社会参加支援
5. 研究開発・産業促進・国際展開

本人の視点、本人・家族の意向の重視

認知症地域支援推進員

焦点を明確に！



人手・時間不足
だからこそ、
注力すべき焦点
を明確にして、
効果的に取組を
発展させよう。

大切にしている考え方

あくまでも本人本位
(一人一人の支援を大切に)

認知症ケア基礎研修
(センター方式研修)
認知症初期集中チーム
認知症サポーター養成講座
認知症専門相談、家族交流会など各種事業

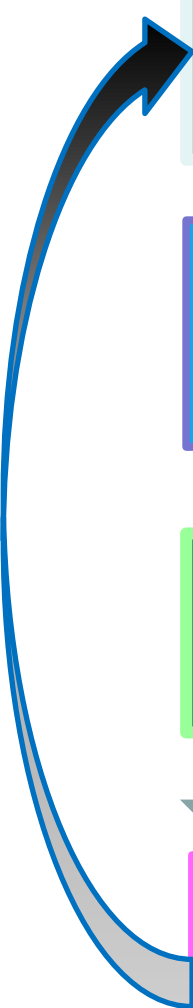
個別の相談から**地域資源(宝)**の
活用につなげていけるように

認知症ケアパスの啓発
【つながることで支援の
流れができる】

個々の支援から
地域の課題を検討

地域包括ケアシステムの
構築
(大崎市に合わせた仕
組みづくり)

地域の課題から
行政の施策化へ



出向く
つながる

話す
発信する

小地域ごと話し合いながら 地域の人とつながり資源を活かした活動の継続

市民・家族(暮らし)に寄り添って
身近な場所で展開

市民が集まる身
近な場所(図書
館等)と連携し
定期的に居場所
づくり

社会福祉協議会
の集い指導員と
連携訪問活動

日頃から
集うところへ
みんなで出向き
多世代交流活動

地域の中心に
なる診療所と
連携し
併設スペース
で情報提供

推進メンバー
(事業所・施設)

推進メンバー
(事業所・施設)

推進メンバー
(事業所・施設)

推進メンバー
(事業所・施設)

話し合いながら地域に沿った活動

古川地域包括支援センター
(認知症地域支援推進員)

志田地域包括支援センター
(認知症地域支援推進員)

玉造地域包括支援センター
(認知症地域支援推進員)

田尻地域包括支援センター
(認知症地域支援推進員)

認知症施策を一体となって推進

大崎市・行政担当者 &
認知症地域支援推進員

実例 市担当者と推進員が、方向性・焦点を共有

→関係者への推進員の位置づけ、機能を周知して
推進員が働きやすい環境を整備

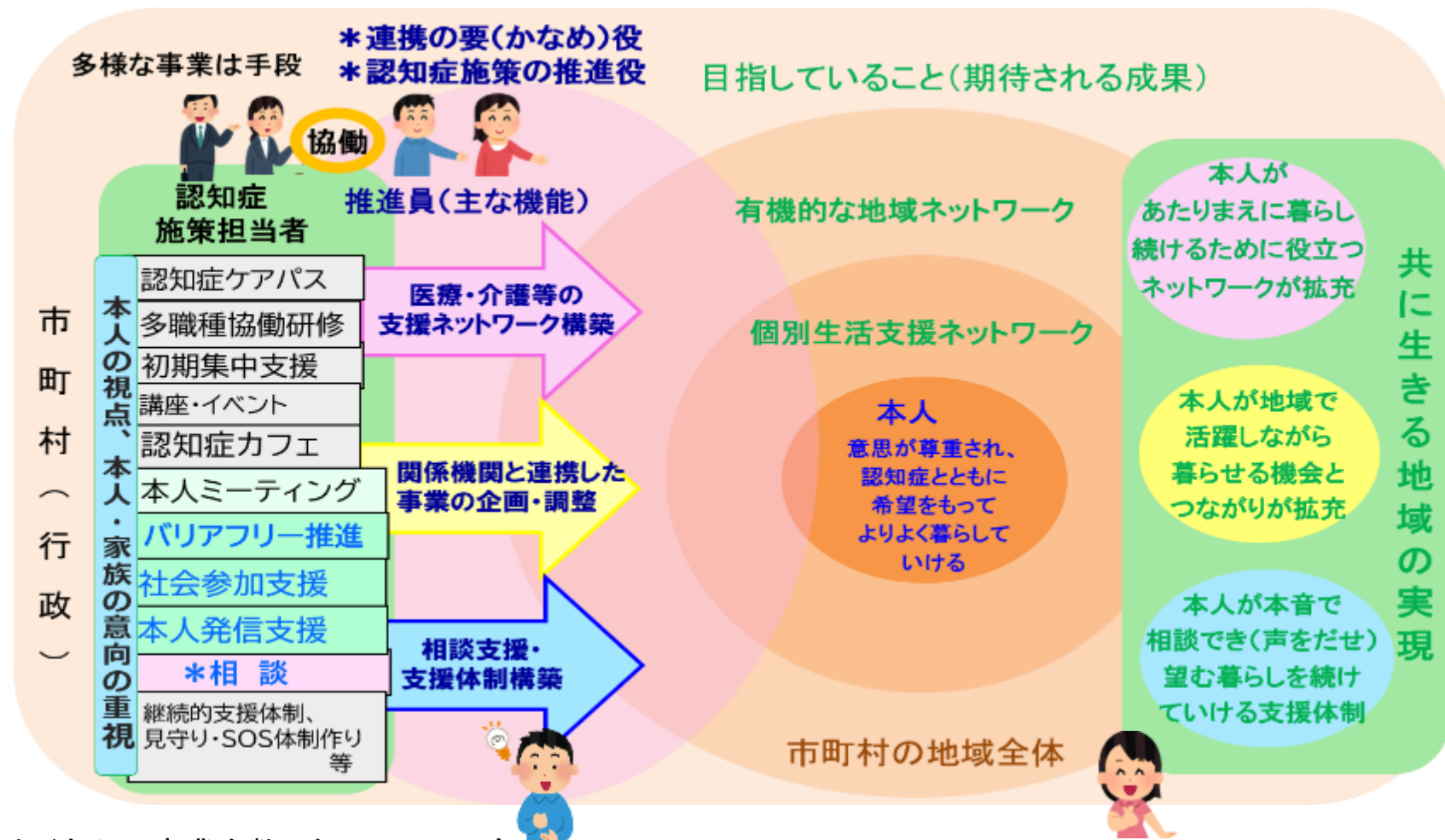
○市担当者が、委託先(地域包括支援センター)の推進員の気づきや意見をよく聞いて話し合い、委託先の仕様書を見直して、推進員がやるべきこと・やりたいこと・できることを可能にする内容に改良(千葉市)。

→地域包括支援センターの中での推進員の位置づけ、機能が明確になり、推進員が自由度高く活動しやすくなり
上司、他職員も、推進員の活動を協力、応援する体制に。

○市担当者と推進員が毎月集まって、方向性、焦点、活動状況を話しあう。推進員の機能や課題を、市担当者が関係機関や多様な人たちに、機会をとらえて周知(釧路市)。

→推進員の存在が広く知られ(専門職、地域、警察等)、
推進員が活動しやすく。

何を目指し、何に注力することが自地域での共生の実現の近道か、活動の焦点化を！



たくさんの事業を数こなしていても、共生に結びついていない。
 * 相談等で出会う本人が地域で活躍(社会参加)していくための活動が大切！

本人はもともと地域で暮らしてきた地域の大事な一員。
 * 本人の声(望み、気づき)や力を活かして、
 バリアのない共に暮らしやすい地域を一緒につくっていきましょう。

2)わがまちの方向性・焦点をいつでもどこでも語りあい、日々の取組のあたりまえに

・認知症施策：年々、メニューが増える一方。

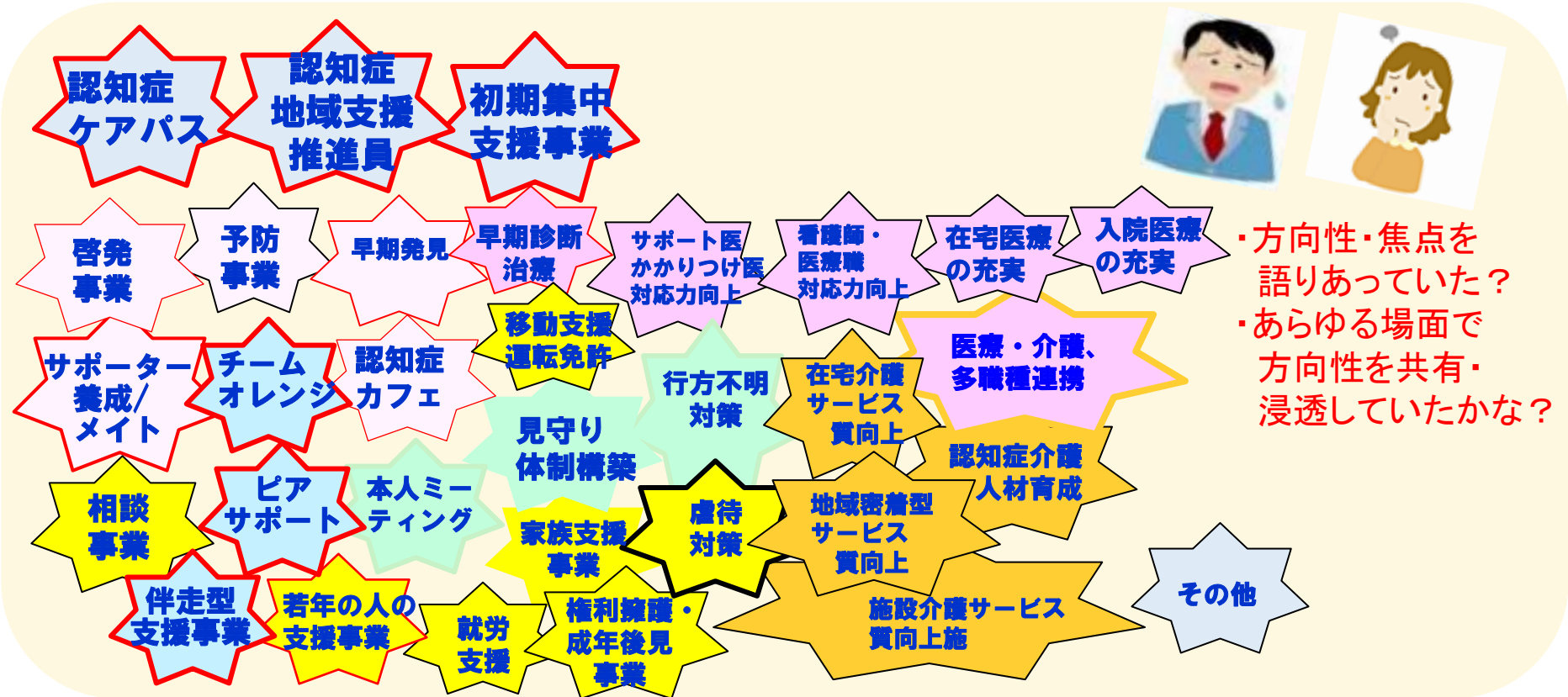
■方向性を共有しないまま、事業・取組を「やること」、「数だけ増やすこと」を焦っていると・・・

→事業を部分的に「こなすこと」が目的になりがち。 ※事業は手段。共通目的は共生の実現。

→努力しているのに、地域共生につながらない(成果がでない)。

担当者・関係者のやりがいや成功体験の共有が生まれない。

→専門職、地域の人々の自発的な動きやチーム作りが進まない。負担感が蓄積し、先細り・・・。



・方向性・焦点を語りあっていた？
・あらゆる場面で方向性を共有・浸透していたかな？

めざす方向：認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる共生社会へ

推進員は、ナビゲーター役

★ いつでもどこでも、めざす方向・焦点を、自分の言葉で語りかけよう

* 本人視点にたって

* 「我がこと」として、あたりまえのこととして

➡ 専門職、住民の結集軸ができる。

➡ やりたいと願っている人たちが現れ、つながってくる。

どの地域にも必ずいる。チャンスを待っている

弾みがつく

希望
本人
共生社会



「希望をもって生きていける共生のまちを、いっしょにつくろう～」
「本人発信(本人が声を出せる-聴く)、社会参加に力をいれよう」

- * 飾り文句ではなく、「我がこと」として、実感をこめて。 →本人の助けを借りながら
- * 共生は難しいことではなく、ごくあたりまえのこととして →実例をリアルに紹介する
- * あらゆる機会に、耳にタコができるくらい →年度末は絶好の時期！

【自分の言葉で語り続けている人たち】



本人・家族・地域の
人と会うたびに



様々な会議や打ち合わせ等
*医療のキーパーソンと



専門職の研修等で



委員会や議会で



カフェやサロンで



様々な講座等で
(サポーター、予防、健康)



企業に向けて



子どもたちや先生に



報告会で

* 行政・推進員の「希望のある方向性」「前向きな一言」を待っている人がいる

★呼応する人が地域には必ずいる、つながってくる、前向きな提案が出る

「自分もそう思う」「それなら、一緒にやりたい」「協力するよ」「自分たちが動くよ」

「認知症とともに生きる希望」を

インパクトをもってPRする既存の資料を、専門職、住民に**繰り返し伝えよう**

*** 誰でも、できることのひとつ。**



認知症とともに生きる希望宣言
リーフレット



希望大使ポスター

厚労省
ホームページ

「希望の道」
3分間の動画

様々な地域で
希望を持って
暮らす実際の姿

★**地域版希望大使：今全国で増えています。** *よりリアルに伝わる

参考 兵庫県HP ひょうご認知症希望大使の活動(当事者メッセージの発信等)

大分県HP 大分県希望大使 特集ページ

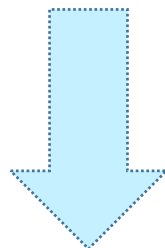
御坊市HP 御坊市「あがらのまちの総活躍希望大使

希望大使：わがまちのすぐそこにいる人

*** 推進員が、わがまちで本人の発信や活動を支援**

3)ふだんの業務を活かし 本人発信・社会参加に注力しよう * (小さな)成功体験が派生

取組を、本人視点で点検してみよう



本人からみると・・・

- ・自分の思いを伝えられているか？
- ・自分の声を聴いてもらえているか？



接する本人の声を聴く:一人からでも

*いつでも、どこでも、あたりまえのこととして、やってみる。続ける。



- ➡本人が、想像以上に話してくれる。
- ➡具体的な手がかり、本人と一緒にできることが見つかる
- ➡自分だけでは、対応できないこともみつける * 連携の好機

* 家族、関係者が、本人が発する姿に触れて、声を聴くように変わっていく。

<認知症の本人の声より>

* 各地で共通の声

- 自分がいるのに、なんで自分に聴かずに、家族にばかりきくんだ？
- 家族だって、わたしのこと、知らないことが多い。
- 何が起こり、何が必要か、体験した者でないと本当のことはわからない。なってみて、わかったことがたくさんある。
- もの忘れもひどいし、すぐにはうまく答えられないけど、ゆっくりきいてくれれば、意見を伝えたい。役立てて欲しい。
- 困りごとや問題ばかりをきかれて、落ち込む。

やりたいことを聴いてほしい。全部はかなわないだろうけど、楽しい話をしたい。

- この業界（保健・医療・檜尾・福祉）は、恐ろしく時代遅れ・・・。
今時どの業界でもやっていくには、客の声を聴くのが鉄則・・・。
自分もそうやって、店をやっていた。（地方の町の小さな商店の元店主）
- 外に出たい、楽しみたい、ハタラキたい！

めざす方向：共生に向けて、本人発信支援から社会参加へ

* 新たなことを始める前に、ふだんの取組を大切に、ちょっと動きだそう

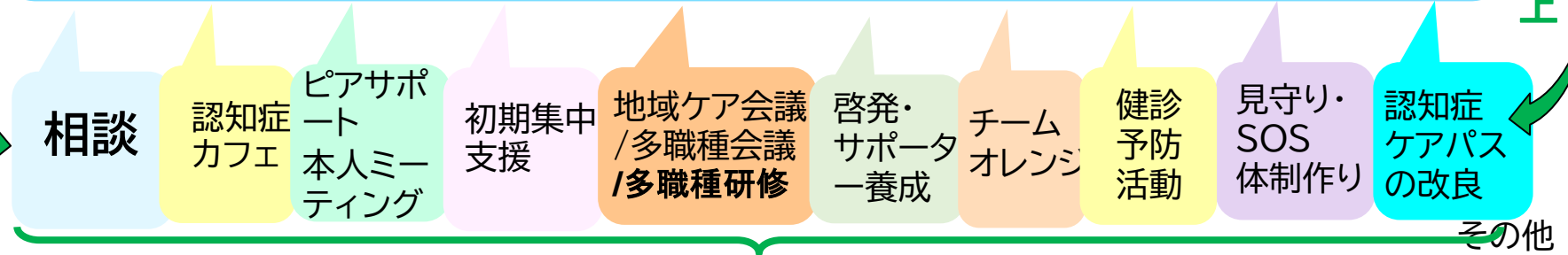
希望をもって日常生活を過ごせる
わが町ならではの地域共生が日々の中で具現化

焦点

本人発信支援－本人の社会参加支援－認知症バリアフリー(必然的に)
本人視点・本人とともに(本人抜きで進めない)

質の向上

質の向上



すべての取組は、共生の実現のための手段

日々の業務の中で、本人の声を聴き、社会参加のきっかけを見つけよう

* 専門職の質の向上、事業の真の成果にもつながる

参考 日々の取組の中で、本人の声を聴き、社会参加にトライ ➡地域共生の姿が、自然体で生まれ広がっている。

相談、認知症カフェ、初期集中支援、本人ミーティング等、多様な取組で出会った一人ひとりから「本人の声」を聴く → 本人発信支援・周囲に伝える → できることから一緒に社会参加活動

はたらきたい

楽しみたい

自分の思いを
伝えたい

いっしょに
いたい



社会参加推進ガイド
【東京センター研究事業2020】

一人ひとりを通じて、社会参加の可能性・多様性、地域共生が具体的に広がる

実例 「相談」を大切に *1例からでも成功事例を→周囲と共有
家族や周囲の声のみでなく、本人の声を聴き、
「やりたいこと」をいっしょにかなえる仲間をひたすらつなぐ

和歌山県御坊市推進員

●地域の人から包括に相談

「近所の男性が車で出かける。運転危ない。事故が心配」

●推進員

自宅訪問するも本人不在。

妻「毎朝、仕事に行くって車乗って出て行くんよ。

仕事はもうしてないのに。止めるもむずかしい」

⇒朝、家を出るタイミングで会いに行こう！



車は傷だらけ・・・



本人が行きたいところ：昔の仕事の資材置き場へ。
物に囲まれ、自分なりに「作業」。

方針：推進員と関係者が話しあって方針を確認

- ・「運転を止めさせる」ことは支援者側の目標。本人を追い込んでしまう。
 - ・まずは本人の願いをよく聴き、本人の味方の存在になろう。
- 「本人が、安心・安全にく暮らしていける」ことをみんなの目標にし、
そのためにできることを考えながら、一つひとつやってみよう。

本人は

大工仕事がしたい。昼間、居られる場所が欲しい。

本人にとっては

仕事場まで行くために車が必要。



- ・ 仕事場を身近につくれば、車は不必要では？
- ・ 認知症対応型デイサービスへ繋げ、
そこで大工仕事や本人が活躍できて
楽しめる場・時間を一緒につくっていけないか。
- ・ それをきっかけに、介護認定、受診につなげられないか。

本人にとって魅力あるシナリオを、推進員が地元のデイサービス職員と相談

⇒デイサービスの職員から提案

事業所に手作りのお地蔵さんがある、その祠を作っていただけませんか？



推進員が本人に伝える。

本人「ワシがみんなの役に立てるんやったら、どこへでも行くよ！」

⇒デイを体験。本人が活躍できることを実感。

本人はやりたいことをするために、介護保険申請や受診に同意。



使い慣れた道具を持参して作業



お地蔵さんのほこら作り
*見事な腕を披露



この一人の活躍をきっかけに、他の利用者も、やりたいことの声があがる。

デイサービス内で、利用者同士がやりたいことを自由に話しあう

本人ミーティングに展開

活躍できる楽しみの場ができた。

車で作業場に行く必要なくなる→免許を自主返納



一人の本人の声や活躍が、他の本人たちの声や底力を引き出す

- 本人たちの声・発案：
- ほこらの完成祝いをしよう。
 - 近所の人にも、みてもらおうよ。
 - 地域で完成祝いの餅まきをしよう。
 - 杵でつくのはしんどい。餅つき機でやればいいよ。
 - 餅コメや餅つき機は、あるよ。
 - 餅に書く字を、わたしが書きたい。



見事な筆字。その後、市等の筆耕役として活躍に発展。



みなさんのおかげです。地域の人に堂々とあいさつ。



持ちまきを通じて地域の大人、子どもと楽しい一時
地域とのつながりが広がる



市の事務職や課長にも、本人の声、活躍を伝達。
←本人が活躍する場面に、課長も参加してもらう。

「本人さんの声、力はすごい！」

*現場で、本人と体験をともにする機会をつくると
本人発信、社会参加、共生の賛同者、応援者が自然体で広がる。

危険で問題の人？⇒声や力を出す機会、活かしてくれる味方を待っている人たち

ふだんの業務で出会う本人を大切に

困難例？こそ、本人は自分の声を聴いてくれる味方を待っている。

<実例>

- ・夕方以降に一人で外出して行方不明になり、何度も警察に保護されている。
警察に「なんとかしなさい」と言われ入院か施設入所を迫られ家族が困っていた事例
- ・一人暮らしで鍋焦がしがある。
火事を起こしそうなので、施設に入れて欲しいと近所の苦情の相談が入った事例
- ・ゴミ出しのルールが守れないでゴミ屋敷になっている、近所に「物を取られた」と怒鳴り込み、
トラブルになり、近隣住民からの苦情でつながった事例
- ・認知症の夫を妻が一人で介護していたが、妻が入院となり、本人が一人残された事例
- ・知的障害や精神障害を抱えたまま高齢化して介護していた家族がいなくなり、
「介護保険でなんとかして」と言われてくる事例

山鹿市 佐藤アキ氏の資料より

本人が思いを語れる: 声を聴く

⇒そこから、自分を取り戻し、前向きに暮らす(安定する)人が、たくさん！

実例

今やっている事業を、本人の声を聴きながら改良 認知症カフェを本人の社会参加の基地に (鳥取市)

前は支援者側だけでカフェの内容を決め、準備をして負担だった。
→あらためて、参加者や地域の本人たちの声を聴いてみた。

ここ(カフェ)の庭の
草が気になるなー

家族から一人
で外出したら
ダメって言わ
れるのよ。

生け花とか
大好き。

一人暮らしで話
相手がいなくて
寂しいな。

毎日のご飯づくりが
一番困る…

実は、マジックが
得意なんだ～。

昔からずっと家で
体操してるんだ～。

本人の声の中に
次につながる
具体的なヒント
が沢山!!!



本人の声をもとに、本人たちといっしょに「つながるカフェ」に大変身！

一人ひとりがやりたいことをやれる、地域のさまざまな人・場につながる認知症カフェに



(カフェの玄関)
草取りをしたい。



生け花が好き。
誰かに見てもらいたい。



実は、奇術が得意
→マジックショー！ 大人気



長年、自分なりに体操
→体操をみんなに
伝授



一人だと面倒だけど、料理は好き。



男の調理教室に発展



本人が行きたい場へ

→本人の参加が増え、生き生き活躍する人が増える

*コロナ禍でも活動可能！

その様子が地域に伝わり、サポーターさんもカフェに集まり始めた！

サポーター「わたしも一緒に楽しんでいます」

→カフェを拠点に地元版のチームオレンジに展開しつつある。

実例 地域の様々な職種・住民と一緒に集まり、自分ごととして
本人の社会参加の機会をつくる (新潟県 湯沢町)



アクションミーティング
“アクション農園チーム”



アクションミーティング
“より所チーム”

仲間と話せて楽しいね! (^ ^)!
次、いつ集まる? (^ ^)!
勤務表開けとくわ!

- ・ 本人の声、ささやかな願いを大事に「一緒にできること」の話し合いを重ねています。
- ・ 同じ方向・目標に向かって活動する仲間・つながりが育っています。



アクションミーティング
“情報かわら版チーム”

暮らしと町をよくしたい!
きっかけを待っている人が
たくさんいる!



アクションミーティング
“傾聴チーム”



- ・呼びかけて、活動をやってみる過程で
想像以上に人が人を誘って参加、支援の輪が広がる →チームオレンジへ
- ・高齢者、認知症の人、障害のあるこども・特別支援学級のこども
子育て中の若いママ+ちびっこ
- ・介護事業者、看護師、医師、医療関係者、研修医
- ・障害の事業者
- ・社協関係者、民生委員、町会の人たち
- ・役所の様々な部署の人たち（企画、総務、観光、教育、警察ほか）
- ・首長、議員

★オープンスペース：誰もが参加しやすい、関心なかった人も通りがかりに

★冬場も集まろう→冬の時期こそ集まって、春の企画・準備を一緒にしよう
役所の健康センターの一室を借りて

- ・会い続ける、楽しみ・やりたいことを語りあう、話しあい続ける
- ・来年、植えるものを、本人たちに教えてもらえながら企画・準備
種から苗づくり、物品等を集める、広報の仕込み
- ・今年取れたひまわりの種の個包づくり+メッセージをつけて
→「希望の種まき」アクションを地域各所で

これまでは、行政・専門職の視点で、啓発活動をくりかえしていたが・・・。

啓発のあり方を本人視点で見直し、本人発信、社会参加活動のチャンスをつくる

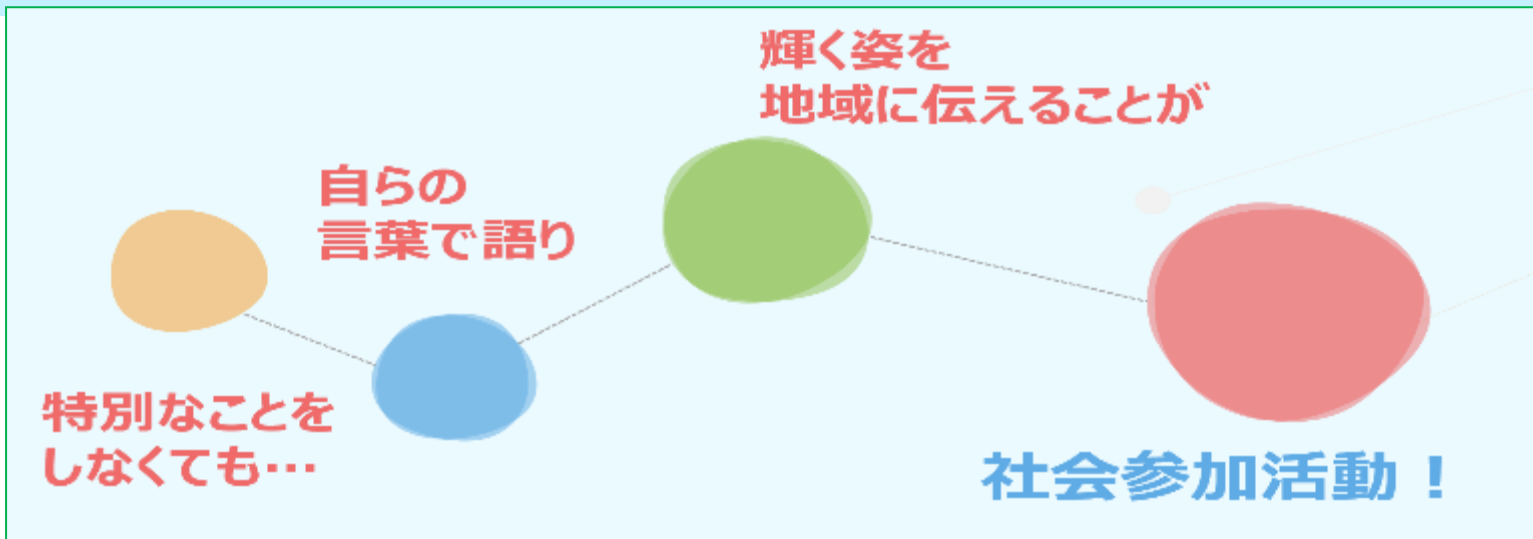
⇒最初は、家族も関係者も、うちの町では「本人は、無理・・・」

⇒本人にイベントのねらいを丁寧に伝えたら、「自分が役立つならいいよ～」



家族、地域の人、
専門職の意識が
大きく変わった！

- ・家族やスタッフがおどろくほどいきいきと、そして堂々とお話しされた
- ・ご本人が自らの言葉で語る姿は見る人に大きなインパクトと感動



「認知症とともに生きる希望宣言」のリーフレットを取寄せ（無料）

地域のケア関係者に配布

- ➡本人とともに希望のあるまちをつくろう、と機会あるごとに呼びかけた
- ➡賛同する人たちがでてきて、集まりを開き、話しあう
- ➡「希望宣言を地域の人に広げたい!」、朗読するイベントの企画が生まれる
- ➡アルツハイマー月間のイベントとして開催。地域の人たちの大きな反響をよぶ。
- ➡自分の体験や思いを、地域の人たちに語る本人が出てくる。



「希望宣言」全文を、ケア関係者が
リレー形式で朗読

※希望がみんなの合言葉になる

★ケア関係者から住民へ

★専門職から専門職へ

ケアマネ、介護職員、

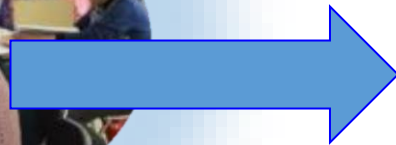
ナース、PT・OT、医師、薬剤師

社会福祉士、権利擁護関係者等

※一人からひとりへ、仲間の輪が広がる

実例 認知症サポーター講座をバジョンアップ

社会参加をし続けよう：住民の意識を変える、当事者発信を支える
(長野県上田市豊殿地区)



地域の集まりで
「認知症になってからも、
いっしょにね～」と
繰り返し話し合っていた。

物忘れや
なくしものが
増え、受診。
認知症の診断
を受ける。

参考：春原 治子さん 76歳、(長野県上田市)

早く人に認知症をオープンにした方が楽！
家族を楽にするためにも
「地域の仲間」がとっても大切ですよ～！



* 地域の仲間に認知症と診断された
ことを伝える。

* 「治子さんは、治子さんなんだから」
「これまでどおり楽しくやろうよ!!」
地域の仲間が、言ってくれた。



仲間とともに地域食堂を作って活躍中。
「できないこともあるけれど、
まだまだ、できることがあるよ～。」

治子さんを地元の介護職員が付き合いながら応援。治子さんから学ぶことがたくさんある。

本人が地域で生活を楽しみ、活躍する声と姿を地域に伝える



好きなお店にでかけて喜ぶ姿を伝える



地域の集まりに、本人が今まで通り参加できるようサポート



特養 ボランティア



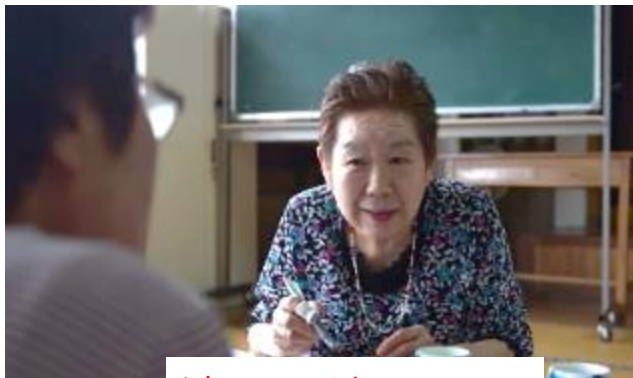
市 介護予防事業サポーター



小学校ガンバ応援団
見守り隊

地域にある場を活かして、活躍を続ける支援を

体験を伝え、当事者理解を広げる
～当事者だからこそ、わかること、できることがある～



地元のサロン



地域づくりセミナー



介護職員研修会



地元の高校で



カフェでピアサポート

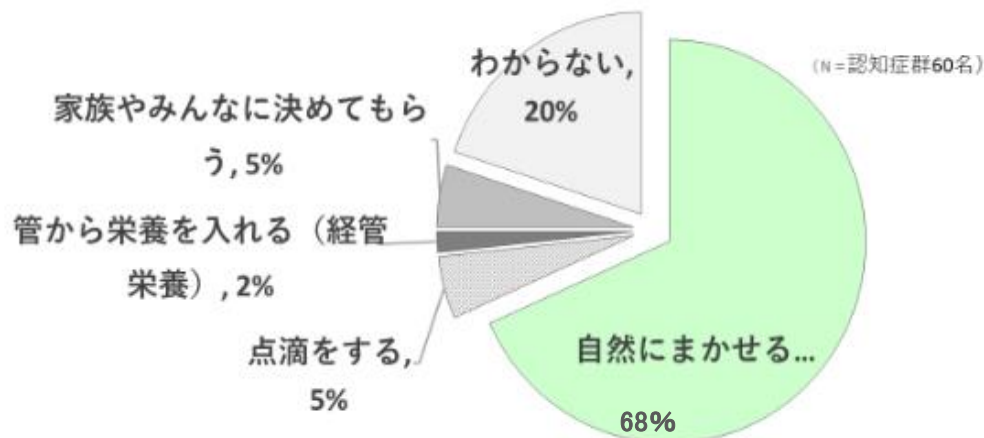
ケア事業所のチカラを活かそう！

認知症の初期の人や元気の人だけではなく
認知症が深まった人の声こそ、大事にしたい！

あきらめず、重度の本人の声を聴き、意思決定を支援
本人自らが考え、生き方、そのための医療・ケアの選択をする：意思決定支援

「声を聴く」： 食べられなくなったらどうしたいか

N=60名（認知症の人）



本人が、意思決定の主体として
「意思を表す機会（支援者が聴く機会）を作る」
→80%の認知症の人が何等かの意思を
表明できた。





地道に本人発信、社会参加支援に
取り組んできている
ケア関係者が地域にいる。
伴走支援の拠点に！
★推進員の重要な活動仲間



3) 取り組む時は、本人視点で、まちの多資源とひたすらつながる

・つなげる

- ・ まちには、きっかけを待っているが、たくさんいる。
- ・ いつもの発想、メンバーで固まらずに、領域を超えたつながりを。



わが町の場、自然、季節、文化、産業等

★ **領域を超えたつながりが、新たな解決力を生む**
現場に出向き、ひやすらつながる、つなげる

実例

わがまちで重点的に強化すべきポイントに関して
キーになる人と推進員が出会い、つながり、一緒に動き出す
機会を行政担当者・推進役の人たちがいっしょにつくる

例

「うごまちハッピー運転教室&Dカフェ」
(羽後自動車学校と共同企画)



自動車学校と
運転を安心・安全に続けつつ
リスクが高まったら免許返納を
本人自ら行い、その後の
社会参加を続けられるように
(秋田県羽後町)

メディアの力を借りる・活かす・伸ばす
希望を持って、ともに生きていく
地域の小さな好事例を
メディアの人たちと一緒に発信
*行政がつなぐ、PRする
(御坊市)

実例:コロナ禍の今こそ・・・

- ①戸外で伸び伸び、三密避けて集まろう、楽しもう:数人からでも
散歩、運動、ごみ拾い活動、園芸、農作業、
本人が行きたいところに少人数でおでかけ(ケーキ屋さん、ランチ:店側也大歓迎)
ミニコンサート,本人の作品展 等
- ②会合やイベントができない今こそ、「個別のつながり」「じっくり聴く」期間に
相談時じっくり、電話を継続的にかける、やりたいことリスト作り、
ひと言メッセージをポストイング、本人の体験・望の原稿作り⇒本人発信支援を
- ③これまでのつながり、取組みの振り返り・集約
つながっている関係者の近況や思いを電話で聞き取り
⇒写真入りのつながり・メッセージ集を作成、今後の活動の大事な基礎に
通信を発行、活動のPR資料をリニューアル
- ④携帯やスマホ、オンラインを活用して、新たなつながり方にチャレンジ
家族、支援者、そして本人もスマホやオンラインにトライ
★楽しく導入、やってみると「もっとやりたい」という声多い

実例



本人が行きたい所へちょっと一緒に

本人の行く公園、お店、つながりのある人、場が
具体的に見つかる。

→その、一人ひとりを本人が暮らし続けるための
理解者・応援者として、推進員がつないでいる。

★本人の声から・・・

自然体、自発的、持続発展するチームオレンジに
(静岡県藤枝市)

仲間に会いたい、顔見たい、話したい、つながってほしい

★オンラインでの本人の集い

- ・設定をバックアップしてくれる人がいると本人が参加できる
職場内や地域でオンライン等が好きな人、学生等も
- ・大人数だと、話しづらい。
 - * 数名で
 - * 短時間でいいので
- ★継続的に
- ・施設に入っている人も参加！



★専門職同士 *そこに本人も参加！

- ・初期集中支援チーム員会議
 - ・事例検討会
 - ・ネットワーク会議
 - ・オフ会 等
- 参照: すいしんいんネット
- * 今は、オンライン環境整備の過渡期
 - ・ホストになれる場/事業者の協力をえながら
 - ・まだ環境がない人にも声かけあって、参加の機会を

本人が暮らす視点に立つと、一緒に支え合える人が 地元にはたくさんいる！



本人を起点に、
一つ一つの小さなつながりを育て、仲間の輪を広げていこう

出会った一人から：声を聴き、社会参加のきっかけ・つながりを：よりよい人生行路を

自分らしい暮らし

生活の支障が増える

全身状態低下

終末

本人の状態

社会参加ができない地域で暮らしている人

▲「障害」が増幅され
→・本人・家族が
二重・三重のダメージを受けて苦悩
・地域住民、医療・介護、行政が
必要以上の負荷を負う

互いが苦悩

*どんな段階でもあきらめず
社会参加の機会をつくろう！

社会参加ができる地域で暮らしている本人

互いに楽に

サポート医、認知症初期集中支援チーム
認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター

認知症疾患医療センター

医師・歯科医・薬剤師

保健・行政サービス

地域包括支援センター

在宅サービス

☆介護支援専門員

訪問介護・訪問看護
デイサービス・デイケア
ショートステイ、他

地域密着型サービス

多様な共同住居施設

病院

出会い
つながりの場

いつでも・どこでも、大切な生活仲間

本人視点でつながりあって

家族や親せき
職場の人々
地域の人々、子供達
町内会、友人
民生委員、地区社協
店、多様な企業
交通機関 他

できない理由探しをするとずっとすすまない 地域にあるものをいかす・強める

鹿児島県大和村 認知症施策担当



井戸端会議

地域共生？・・・もともと、うちのまちにあった・・・
まちをよくみたら、今もある・・・！

「地域の中で過ごすことのおかげがえのなさ」

* 認知症のある人にとっての生命線

コロナの時代こそ
ちょっと、戸外で



● 解放感、ストレス発散、五感の快刺激

- ・外にでると、気持ちいい。のびのび
- ・ストレスを発散、心身状態が健やかに
- ・五感の快刺激で生き生き



● 時空間の感覚、記憶の保持(強化)

外にでることで、季節感、時間、場所の
感覚、記憶を保てる(強められる)。

地域
健やかに自分らしく
生きていく舞台



● 楽しみ・喜び・活躍のチャンス

- ・外にでると、楽しみや喜び、活躍の
チャンスがいろいろある。
- ・秘めている言葉や所作の力を発揮できる。



おひざ貸しボランティア

● 出会い・つながり・絆の広がり・深まり

- ・なじみの人とつながりを保てる。
- ・新しい出会い、つながりが生まれる。
- ・見守りやSOS時の支え合いが育つ。

社会は変化し続けています。
認知症になっての生き方・支え方も
変化し続けています。



一人ひとりが持っている可能性
わが町にある可能性を、
どうか大切に。



自分が
自分らしく伸びやかに
地域の中で暮らしていくための、
新しい流れを、一緒に。



★自分の立場を、ぜひ大切に！

おつかれさまでした！